

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501149), 法人名 (社会福祉法人 泰生会), 事業所名 (グループホームこもれび あじさい), 所在地 (伊達市松ヶ枝町154-20), 自己評価作成日 (平成25年2月12日), 評価結果市町村受理日 (平成25年3月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は高速インター通りにある温暖な気候に恵まれた自然豊かな場所に立地している。隣接している同一法人ケアハウスとの交流も多い。ホームでは四季折々の年間行事に力を入れ行事食のほとんどが職員の手づくりで賄っている。特に季節のお菓子づくりは利用者さんと一緒に昔の記憶を掘り起しながら笑い声の中で行っている。又、外に出る機会も多く春は花見会。バスで出かけるイチゴ狩りやサクランボ狩り、秋にはぶどう狩りや紅葉見学。家族やお友達が参加できる夏祭りや焼き肉昼食会と敬老会、クリスマス会と楽しんでいます。医療連携の体制も整えており家族からの信頼と安心を得ていると考えそれが故に家族や知人の訪問も多いアットホームな雰囲気大切にしている事業所です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501149-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年2月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、昔ながらの年中行事や季節の外出行事を多彩に企画し、日常的にも本人の力や意欲の発揮を促してその人らしい暮らしを支援している。建物内は生活感、季節感に配慮した家庭的雰囲気漂う居場所になっており、利用者はそれぞれの生活スタイルを継続し、穏やかに寛いだ日々を過ごしている。職員は利用者に対するケアサービス全般において、理念に掲げている「満足できる生活」に近づけるように努力している。特に高齢者の食の楽しみを重視し、地場産の食材を多用してバラエティーに富む献立や行事食、おやつを手作りし、漬物を漬けるなど、地元で暮らしてきた利用者の知恵を継承し豊かな日常生活を支援している。また近所付き合いや地域との繋がりに力も注ぎ、災害時の地域連携強化にも取り組んでいる。協力医療機関の往診(内科、泌尿器科、整形、歯科)、訪問看護師の確保と医療面での安心を図っている。事業所は今までの経験やノウハウを咀嚼しつつ新たな体制へと歩みだし、サービスの根底にある利用者本位のケアを支える為に積極的に職員を外部の研修に派遣し、向上心や力量アップに向けて育成重視の取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service goals.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は採用時にオリエンテーションを行い理念について説明をしている又、職員会議やカンファレンス、毎日のミーティングに利用者さん中心の施設としての位置付けを実施している	開設後、当時の職員等が協議し作成した「満足できる生活」「その人らしい尊厳のある暮らし」を保障するという理念を掲げている。事業所内の要所に掲示し、新任オリエンテーションや会議、日々のケア場面で理念の実践に結び付けて共有を図っている。	事業所では、現理念の見直しを予定しており、全職員で協議の上、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念作成の実現と共に、常に立ち戻る原点として共有し実践に繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	玄関にお花やベンチを置き近所の方が散歩中よく利用している又、通りがかりの人が利用者さんと一緒にお話をしている場面がよく観られる	地域との交流や協力関係を重視し、機会を捉えて良好な関係の構築に取り組んでいる。隣接のケアハウス住民とのふれあいは勿論のこと、近隣住民からおすそ分けを頂いたり、職員の子供達が気軽に遊びに来たり、音楽ボランティアなどの受け入れなど、地域に開かれた事業所として交流を促進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入会しており、運営推進会にも役員の方の出席があり認知症のお話や相談を受けている又、老人クラブの入会や市内の文化祭の参加についてプッシュしているところだ		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議の内容や家族からの意見や要望を法人に反映しており又、職員に資質向上を促しケアに向けている会議録は回覧して職員が必ず目を通す仕組みを構築している	自治会会長や民生委員、行政職員、家族などの参加で開催している。運営や利用者の状況などを報告し、地域交流や防災、事故報告など現状の課題も検討テーマとして活発に意見が交わされている。メンバーからの意見を反映し、事業所の外看板の製作に動いている。議事録は分かり易く記載されており、欠席の家族にも送付を予定している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は日頃から市役所担当者との連携を密にとり施設内の運営や利用者さんのサービスに繋がっている又、入所に向けての必要な相談をしている	事業所の運営やサービス全般、利用者の入退居に関する事例、各種提出書類など市から助言や協力を得、積極的に情報交換を行いながら行政との協働関係を構築し、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは身体拘束をしてはいけない所であることを意識つけ開所以来、玄関の施錠は掛けたことがないホーム内には利用者の権利を掲示している	身体拘束はしないという原則の下、外部研修に毎年2名の職員を派遣し、伝達研修を通して全職員で拘束の無いケアに努めている。不適切な言動に気付いた場合は、管理者がその場で指導をすることで、繰り返し防止の注意喚起をしている。利用者の自由な外出は、気配を察知して見守り、開閉センサーでの把握や近隣への要請を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束についての理解を深める為にケア内容に耳を傾け身体拘束だけでなく精神的ケアを含め職員に伝えている職員も研修を受けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している家族の支援、これからは機会があるごとに日常生活自立支援事業も含め地域包括支援センターの職員とも連携をとっていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時において契約書・需要事項説明書を読み上げ納得のいく説明をしながらサインと捺印をもらっている後日、問い合わせがあれば出向いて説明して納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の意見ははもちろんのこと、家族の来所時お帰りの際、近況を伝えるが何か気に掛かることがないかお話を伺っている	家族の来訪が多く、その際には利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みを伝えながら、意見や要望を聞くように努めている。直ぐに対処が難しい提言なども大切に伺い、サービスや運営に反映できないか検討をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティングで意見があれば、施設長に上げて回答をえている。職員からの相談は必ず解答するよう務めている前年度より良くなった	ミーティングや職員会議、ユニット会議の場で職員の意見や提案を聞き、個別の相談も随時対応している。運営者は、事業所の現状を踏まえつつ職員増員や異動に関する要望などの意見を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者は給料に反映される仕組みになっているほか、前年度は職員の喫煙室の整備をしました職員との話し合いで必要なものを整備してきました		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加して個人のスキル向上を目指しケアに反映している職員が順次の研修を受ける体制をとっている又、勤務も研修に合わせ調整している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム広域連絡会に入会し年4回の研修会に参加して職員同士の交流を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から施設見学までの段階や入所後間もない本人の不安を傾聴し一日も早く安心できる関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階では家族の心配事や悩みを詳細に傾聴し不安解決に努力しているが傾聴内容に不安があるときは再度、連絡をして安心できるケア内容に繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めるサービスは優先順位にのって開始するようにしているが現段階で他のサービスが必要となれば移行する場合もある		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者さんは共に暮らすを基本に料理やレク、洗濯物の畳みなどを本人のペースにあったものを一緒に行う事で充実した一日を過ごして頂く		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年数回の恒例行事や誕生会には家族の参加を促し一緒に楽しむ機会を設けている又、家族の来訪時はホームでの生活ぶりを伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊も自由であり、ご近所さんの来訪時は手作りのお菓子を皆さんで頂たり、手作りの飾り物を頂き皆さんの見える場所に飾るなど自由に行き来の出来る支援に努めています	近隣の人達や友人などが気軽に足を運んでくれるよう、来訪時のもてなしを心掛けている。幼馴染みの来訪やお茶の会の仲間との外出、通い慣れた美容室に出掛けるなど、長年の関係継続をサポートしている。またユニット間の訪問も多く、時には利用者に小さな手土産を持たせる気配りをし、互いの行き来を温かく見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を把握してトラブルにならないように気配りをしているが万が一トラブルになったときは調整役になるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに伺ったりしてるので家族の方から近況を知らせてくれる又、葬儀にも参列している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のミーティングやカンファレンスで課題を発掘して支援していくが本人の思いを遂げることに家族も協力頂く場合がある	職員は、日常生活を通して利用者の思いの傾聴に努めている。難しい場合は、2~3の選択できる言葉を伝え、本人のうなずきや表情などから把握している。職員は気付く感性を磨きながら、職員全員で協議を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所後に於いてアセスメントや家族からの聞き取りから課題や思いを導き出して支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のタイムテーブルを理解しバイタルチェック表や水分・排泄チェック表で把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月のカンファレンスでの課題や検討内容が介護計画作成やモニタリングの素となっています	入居時にはインテーク面接から始まり、関係者から詳細な情報も得て本人や生活環境の理解に努めている。一部センター方式を活用したアセスメントを実施し、3ヶ月毎の定期見直し時に評価を行い、日々の記録やカンファレンスを通して計画作成に繋がっている。本人の意向重視の視点に立ち、家族の意向も聞きながら介護計画を作成している。	個別の介護計画の理解と共有が、職員全員のものとなるよう取り組みが望まれる。また介護計画に挙げられているサービス内容が、日々の生活の中で実践されているか確認する為にも、計画と介護記録が連動する書式などの検討やその整備を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化は連絡ノートを活用して職員間の連携を図っている又。カンファレンスで話し合い介護の方向性を指示している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味の仲間と一緒に食事に出かけたり、喫茶店に出かけることがあり送迎はお友達にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の夏祭りに参加していますが、自治会の一員として自治会長に老人クラブの入会を交渉中です		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時においては、従来のかかりつけ医かホームの往診医かの希望を本人と家族に伺っている	協力医療機関による往診(内科、泌尿器科、整形、歯科)の他に、希望のかかりつけ医や利用者の状態に応じた受診の多くは職員が同行している。薬の変更などは電話や口頭で家族に報告している。週1回の訪問看護師による健康管理で、日常のケアをサポートしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新入所者の情報は勿論のこと利用者さんの入院・退院の日々の状態・情報を伝えている訪問看護師の指示によっては受診をすることもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活援助添書を通じ、日々の生活状態を伝えている病院関係者とは退院に向けての相談や連携が取れている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関する説明をしているが、改めて必要時に医療との連携が不可欠と説明してあくまでも緩和ケア施設であれことを理解していただく	契約時に、利用者の重度化や看取りに関する対応について説明し同意を得ている。利用者、家族の希望に添い事業所でできるケアを踏まえた支援を行う方針であり、状態変化に応じて、再度家族や主治医と話し合う場面を設けている。介護力向上を視野に入れ、職員はターミナルに関する研修を順次受講している。	事業所としての看取りに関する対応は利用者、家族の理解を得ているが、重度化に伴い終末期の過ごし方は利用者、家族の大きな不安でもあるので、具体的な対応などを文書化した指針を作成し、それを基に話し合い、関係者間の方針の統一に繋げることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉教会では応急手当の仕方をしているが消防関係者の話を聞く機会を持つ又、個人のスキルアップのためにも普通救命講習の受講を考えていく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年2回夜間を想定した避難訓練を近所の協力を得ている災害時の防寒着・飲料水・非常食の備蓄を着々と進めている	春は消防署立会いで、秋は自主訓練として夜間想定避難訓練を実施している。非常時に地域の協力が不可欠と認識し、系列のケアハウスや近隣住民との緊密な協力関係の構築に努めている。冬季の災害も含め必要とされる備蓄品の準備や、保管場所の検討を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の認知の状態を把握して生活歴を含めた介護をしている必然的に人格を尊重した声掛けに努めている	職員は、尊厳を重視した接遇に努力している。排泄ケアでは、誘導や失敗は周りに気付かれない介助に努め、羞恥心に配慮して専用のバスタオルの用意や希望に応じ同性介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に更衣・食事・入浴・レク等の希望を取り入れ本人に決めてもらうような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望で急なドライブやお買い物にでかけることを支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大切な衣類はクリーニングにだしている行きつけの美容室が隣町でも家族の協力で出かけている又、洋服屋さんや化粧品も同様に支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会・敬老会・夏祭り等の「こもれび行事」には利用者さんの嗜好品を提供して食の楽しさを味わって頂いている	食の楽しみを大切に、利用者と職員と一緒に食事やおやつを作り、会話を交しながら味わっている。利用者の嗜好や嚥下、体調面に配慮しつつ、旬の食材、特に地場産の野菜や魚を多用したバランス良い献立になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で食事量・水分量をチェックし食事量の少ない方には代用品を食べて頂き、水分量の少ない方には本人の嗜好品を飲用していただく		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄・ポリドントのつけ置き・嗽は本人の状態に合わせた口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレでの排泄ですが、個人では時間を見ての誘導をしている場合もある	個別の排尿、排便のリズムを把握し、本人に合わせて誘導している。夜間はおむつ使用であっても日中はデイパパンツやパットに変え、トイレでの自然な排泄を支援している。身体機能の低下に対応し機能性の高い便器に取り替えたり、きめ細かな便秘対策を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して水分量・食事量チェック、排泄パターンを把握して排便のない方には手作りヨーグルト・オリゴ糖・牛乳等で排便を促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック表で体調管理をして午前中の中の入浴希望者にはそのように楽しんでもらい、本人の気持ちも大きいので声掛けを工夫している	いつでも入浴が可能であり、週2～3回の入浴を支援し、清拭や足浴、シャワー浴などで清潔の保持に努めている。時には友達同士で入浴を楽しむ人もおり、拒む場合も上手に言葉を掛け入浴を勧めている。シャワーチェアは体位を確保し易い機種を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も利用者さんスタイルで早く休まれる方・TVを楽しまれる方・就寝時間にこだわる方などそれぞれのライフスタイルに合わせてます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストの活用・連絡ノートで変化を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2階へ遊びに行く・好きな編み物をする・食器洗い・食器拭き・洗濯物の畳をする野菜を切るなどその方の得意ことを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブや買い物、友人との交流での外出や家族との外泊を含め支援している尚、職員と1対1の外出ができる個人レクの用意もある	花見や紅葉見物、果物狩りなど多彩な行事を計画し実施している。ドライブが好きな利用者もあり、折にふれ海や昭和新山などに出掛けている。散歩や買い物に出掛け、個別対応の外出の機会も設け、気分転換や楽しむ機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心する金額を個人で持って頂き、家族の希望する金額は事務所金庫で預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	廊下に公衆電話の用意があり家族や知人への電話は本人に代わって取り次ぎなどをして話しやすい環境で使用してもらう又、葉書の代読など行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまわくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはロスナイの整備・廊下には共用ベンチやソファを用意して自分の居場所を確保できる場所が多い食卓席は食事時間の同じような方の席やほかの方から批判されない工夫をしている	台所を中心にした回廊式の廊下は広く、椅子やベンチの設置で、利用者の憩いの場所が作られている。家庭の雰囲気が漂う共用空間には、家庭仕様の家具を配置し、植物や季節の飾りが置かれている。また利用者が活けた花を飾り、応援する歌手のポスターや習字、手作り品などが飾られ、利用者個々の自慢を表せる品々を採り入れた居場所作りをしている。室温、湿度も適切に調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子や共用ベンチが整備され気の合ったもの同士が雑談できるスペースがある玄関にも涼める場所を確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていたものの仏壇・家具等を搬入、馴染みのものを持参していただいている壁には家族の写真を貼り安心して頂く	各居室にはクローゼットやベッドを完備し、整理しやすく、身体状況に応じて介護用ベッドを使用している。馴染みの家具や仏壇、家族の写真などが持ち込まれている。見当識に配慮しカレンダーに書き込みしたり、全熱交換器の設置など本人が安心して快適に過ごせるよう気配りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには便所と明記し目隠しにレースのカーテンを引きお風呂は「ゆ」ののれんを下げ確認出来るようになっている又、玄関、ホールに生け花を行ける方をお願いして楽しんで載っている		